

キャラクター名
成瀬 秀(なるせ みのる)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン エグザイル		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	
	オプション		年齢	8	性別	男
覚醒	償い	衝動	自傷	初期侵食率	34	%
出自	政治権力	経験	力の暴走	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	2	0	0			2	行動値	9
感覚	1	0	0	1		2	(非装備時)	9
精神	3	1	0	1		5	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	8		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識: 花	2		情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
混沌なる者の槍	白兵	5r+6	4	12		2種以上のシンドロームで判定D+3個

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウエポンケース	
コネ: UGN幹部	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
特異点	P	N		
紬ちゃん	P 純愛	N 悔悟		
両親	P 尊敬	N 罪悪感		
”紬”(シナリオ)	P 庇護	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
CR: ノイマン	2	2	Xジャー					
効果:	C値-LV							
コントロールソート	1	2	Xジャー	武器		対決		
効果:	【精神】で判定可							
コンバットシステム	3	3	Xジャー/リアクション			対決		
効果:	判定D+[LV+1]個							
オールレンジ	5	2	Xジャー	武器		対決		
効果:	判定D+LV個							
死神の精度	3	4	Xジャー	武器	単体	対決	リミット	
効果:	攻撃力+[LV×5]。《オールレンジ》							
ジャイアントグロウス	2	5	Xジャー	武器	範囲(選択)	対決	100↑	
効果:	範囲(選択)に変更、攻撃力+2D							
勝利の女神	5	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果:	達成値+[LV×3]							
写真記憶	★							
効果:								
環境適応	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

何処にでもいる普通の子供だった。それが崩れたのはこの力に目覚めてしまったからだ。
ほんのちょっとした行き違い、反抗心。”自分”をわかってほしくて激憤のままに叫んだ。
瞬間、母が倒れていた。
何が起きているのかわからない。けれど間違いなく自分のせいで母が、周りが傷つきあかく染まる。
恐怖に埋め尽くされた意識が途切れる直前、最後に目に焼き付いたのは動かない母の青ざめた顔と父の畏怖に満ちた顔だった。

覚醒したのは6歳のとき。やっていないのにクラスメイトに怪我をさせたと勘違いされ、両親と「謝る」「謝らない」の喧嘩になった。
信じてほしくて懸命に主張したのに、気付けば母が血に塗れて倒れていた。何が起きたかわからないけれど、”ソレ”をやったのは自分だ、と理解してしまう。次に目が覚めたときには「BLUE」に連れてこられていて、父と知らない大人の間でここでの生活が決まっていた。
毎日訓練しても、何度教えられても上手くならない能力操作。【落ちこぼれ】と言われ続けても諦めなかったのは紬やあきらの存在と父の言葉のおかげ。幸いにも母は意識は取り戻さないものの一命を取り留めたので、まれに外出を許されたときにお見舞いに行っていた。
10年前、襲撃事件によって初恋と友人を一気に失う。いつか将来強くなって告白する/一緒に戦う、という夢は絶たれた。
幼少期はちょっとわがままで好奇心旺盛だったが、母を傷つけたことや襲撃事件を経て消極的な青年に変わってしまった。
事件後保護されてから数ヶ月して母の意識が奇跡的に戻るが今日まで面会は叶っておらず、許されたのは手紙のやり取りのみ。
◆紬との関係
落ちこぼれとからかうことなく、コツを教えてくれたり話を聞いてくれたり。彼女の傍は心地が良かった。優秀な彼女に負けたくないくらい、守れるくらい強くなりたっていた。
「いつか僕が隣に並べるくらい強くなったら、君に<アガパンサス>を贈るよ」
彼女は意味がわからないという顔をされたけれど、その時までのないしょだよ、と笑って指切りをした。
その約束が果たされることは、ないけれど。